



2017年8月の日本勢 MAC スリランカ遠征により2度目の訪問となるジャヤワルダナセンター。第二次大戦後、この当時、連合国の間では日本を4分割統治するという案がありました。1951年、当時セイロン蔵相だったJ.R.ジャヤワルダナ氏のサンフランシスコ講和（平和）会議における演説を機に、日本の領土分配する事無く、現在の日本という「国のかたち」の切っ掛けになったのです。極真会館、大山倍達館長もここを訪れ、現在もこの記念館に贈呈品が飾られています。2011年からスリランカと交流を深め、スリランカ各所に支部を持つ空手道MACは、J.R.ジャヤワルダナ氏の功績を日本の若者たちに伝え、今後もスリランカへの感謝を忘れず心の交流を深めていこうと考えます。

経歴（ウィキペディアより）

ジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ（1906年9月17日 - 1996年11月1日）は、スリランカの第2代大統領。英国統治下のセイロンで頭角を現し、独立後は内閣で要職を務め、議院内閣制下の1977年から1978年まで首相を、大統領制移行後は1978年から1989年にかけて大統領を務めた。

1946年に国民連帯同盟へ加入し、1947年に初代蔵相として入閣した。

1951年には国連に蔵相として参加し、サンフランシスコ講和会議にセイロン代表として出席した。その際の会議演説でジャヤワルダナは、「日本の掲げた理想に独立を望むアジアの人々が共感を覚えたことを忘れないで欲しい」と述べ、また、「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛によって止む」という法句経の一節を引用して（現スリランカ）は日本に対する賠償請求を放棄する旨の演説を行って各国の賛同を得、日本が国際社会に復帰できる道筋を作った。

日本との関係

閣僚・首相・大統領としてたびたび訪日、更に政界引退後も日本を訪れている。また日本の仏教関係者をスリランカに招待するなど日本とスリランカの交流に尽力した。1989年、昭和天皇の大喪の礼に本人の希望により夫人とともにプレマダーサ大統領に代わって参列。既に肩書きは「前大統領」だったが、元首級参列者・大統領同格の国賓として待遇された。1991年には日本の仏教関係者の招待で広島市を訪れ、広島平和記念資料館を見学している。1996年、死去に際し献眼、角膜提供。「右目はスリランカ人に、左目は日本人に」との遺言により、片目は日本に贈られた。

Sri Lanka excels at the San Francisco Peace Conference

Address by J R Jayewardene Leader of the delegation of the Government of CEYLON (SRI LANKA) at the conference for the conclusion and signature of the Treaty of Peace with Japan - San Francisco, USA 6th September 1951.

On 6th September, 1951, Sri Lanka displayed immense courage and scintillating eloquence in standing up for Japan at the international conference held in San Francisco to finalise the Peace Treaty with that country. By doing so. Sri Lanka underscored the age old ties of deep affection and respect that existed between the two countries.